# ハート通信 令和4年４月号　通算209号

**優しいハートと確かな医療技術で地域社会に貢献します！**

**4月からのクリニックでの変更点について**

**支払金額の変化・・・**2年に1度の診療報酬の改訂に伴い、診療点数が変わります。これまでと同じ内容の診療でも支払額が変わることがありますので明細書でしっかりチェックしましょう。　薬局でも薬価が変わりますので支払額が変わります。

**長期投与患者では、リフィル処方箋が発行される場合があります・・・**慢性疾患等で状態が安定しており、毎回同じ薬剤が処方されている方においては同じ処方箋が3回まで受診無しに使えるリフィル処方箋が発行される場合があります。　症状・薬剤によって適用可能な場合とそうでない場合があるので医師または薬局薬剤師に相談してみてください。

**種子田の休みがあります・・・**4/１２と4/20.21.22は種子田が不在です、小野が外来診察を担当します。

**発熱等専用受付外来・・・**新型コロナ予防接種の住民個別接種に対応するため、発熱等外来を中止しておりましたが、4/25より再開します。　14：00～15：00の間を専用時間帯として西側「昭和館」にて当日の予約制にて行います。

新型コロナワクチン予防接種は4/14で当クリニックでの個別接種業務はいったん終了します。　4回目という声も聞こえてきますがこの点については現状白紙です。

**5月より・・・**水曜日午前中の外来診療の一般受付担当が種子田ではなくて小野に変更します

水曜日午前は、これまで種子田が一般受付で、小野は予約済み患者さんだけを受け付けていました。5月より水曜日午前中は種子田が不在となるので、小野のみで外来診療を行います。一部に時間予約済の患者さんも診察するので、受付と診察の順が前後することが頻繁に発生します。受付状況によっては待ち時間が長くなることも考えられます。　水曜日の午後はこれまで通り種子田が外来診察を担当します。　どうぞご注意ください。　**月曜日・水曜日の午前中診察担当は小野のみです**

**4月以降マイナンバーカードが健康保険証として利用できるようになる件**

報道などで耳に入っている方も多いと思いますが、4月から保険証として利用できる医療機関があります。　当クリニックでも既に顔認証の機器は厚労省から届いていますが、現行システムとの調整に時間がかかりそうで夏ごろまでには使えるようになると思いますのでもうしばらくお待ちください。

さて、ところでマイナンバーカードは既に持ってますか？　実は職員でも持っていない者が少なくありません。

大多数が所持することによって有用性がは発揮されるシステムなので政府も普及にかなり腐心しており、現金同等のポイントまで付与していますが大多数が利用するまでには至ってません。

**医療機関でのメリットだけ挙げてみると、**

1. 保険証・診察券・高齢受給者証・限度額証明書・障碍者手帳などを同時に提出する必要が無くなります、それぞれの更新も無くなります。受入れ医療機関ごとに持っている多くの診察券も不要になる可能性があります。
2. 健康診断・予防接種などの履歴が確実に残ります。
3. 薬局では、薬の重複投与などの防止が図れまます。（認証システム導入医療機関分）

他にも、これがあれば住民情報・年金情報も全て入っていますので、住民票や印鑑証明書をコンビニエンスストアで取得することができるなど多くの便利さがあります。　確実な身分証明でもあるので、運転免許証返納者などはこの困りも解消できます。

**失くしたり、悪用されないかしら？**

暗証番号が必要なので、失くしても悪用される可能性は極めて低いです。　すぐに効力無効にできますし再発行も容易です。

ちなみに私（赤峯）も、はやくに紛失しましたがすぐに再発行できました！

**新入職員紹介****佐藤智美　　病棟勤務　准看護師**

2月から仕事を始めました准看護師の佐藤智美（ともみ）です。　私は高校卒業後に一般社会人を10年以上経験した後に看護学校に入学し、准看護師の免許を取得しました。　これまでは精神科の成人病棟で3年間、高齢者施設で1年ちょっとの看護師経験があります。昨年からコロナ禍でえらく流行しているというニュースに影響されてキャンプを始めました。 近場では志高湖キャンプ場がお手軽なのでよく行っていましたが、良いキャンプ場を色々と探しているところです。
 とても気分が入りこんでおり、暇があればキャンプ動画を見たりしています、キャンプ用品を揃えていくのがとても楽しいです。 いつかはソロキャンプ（一人での宿泊）に挑戦したいと思っています。　仕事も一生懸命頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　編集責任者：事務長　赤峯慎太郎